



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年08月29日 第1082号「週刊五十嵐レポート」

自己認識とは

8月25日付日経新聞、「自己認識が低い日本の管理職」というコラム。

諸外国と比較すると、日本の管理職は「自己認識」と「変化への敏しよ性」が著しく低いというデータがあるとのこと。ちょっとショッキングな話。

「自己認識」とは、自分の大切にしている価値観や行動、感情、習慣を理解すること。自分に対する理解が深いほど自分を改善できるスピードが速い。自分の行動やその理由を知れば、行動を修正できるとのこと。

人間の意識には盲点や死角が多く存在する。我々は見たいように見る。理解したいように理解する傾向があるという。物事を正確に認知できず、自己イメージに偏りがあるため、失敗や自分の欠点には目が向かない。自分自身の内省だけでは難しく、周囲からフィードバックをもらうことが効果的であると。

日本では、部下から上司に対する評価は言いづらい。批判と受け取られ、自分への評価に影響があるため、言えない。そうすると管理職は自己認識が低くなると言われている。そのため、最近では360度評価が認知されている。

小さな会社の場合、まずは顧客の声、クレームがあったとすると、それは今のままでは会社はだめになりますよという神の声。そこから改善のヒントが生まれる。また、社員からの意見具申、これもこのままでは会社は上手くいかないという兆候。周りから意見を言ってもらえるのは幸運だと思った方がいい。普通は、お客であれば、嫌になれば、商品を買わなくなり、黙って去っていく。社員ならば、黙って給料だけもらう、嫌なら辞める。社長は裸の王様に陥りやすい。「自己認識」が低いというのは自分を含め否定はできない。

周囲からフィードバックをもらうには聞く力が必要になる。顧客に対して、「なぜ、うちと取引していただいているんですか?」「なぜ、うちの商品を買っていただいているんですか?」と素直に聞く。社員には、「会社、組織をより良くするためにどうしたらいいか?」と聞く。また、社員に、強制や命令ではなく、質問することで社員にはっと気づかせ、次への行動を促すこともできる。人によっては強制や命令をいやがる人がいる。そういう人には、質問しながら、考えさせ、自ら「なるほど」と気づかせ、自発性で行動させることが成果を生む。

ちょっと
気になる出来事

8月25日付日経新聞に「ビリギャル」のモデルになった人のインタビューがあった。

彼女は、高校のはじめ、校内で成績はビリだった。学習塾の先生と出会い、「君が慶応に受かったら面白いよ」と言われた。

その気になり、1日15時間の猛勉強を続けたら道が開けた。一生懸命勉強することで目指す大学に入ることができた。新たな出会いにつながり、世界が変わった。

彼女の講演を聴いた子供が「自分も早慶に行きたい」と思い立っても、親が「地頭が悪いから無理」とブレーキをかける。

エンジンをかける大人が少ない。子供のやる気をそぐ大人の反応が悔しかった。コロンビア大学で認知科学の領域を専攻し、人が学びに向かう動機付けや環境を研究する。子供の未来を変える教育者を増やすため、動機付けを科学的に説明したいと。

教育者には3つある。上手に教える人、下手に教える人、生徒の心に火をつける人。心に火をつける人になりたい。



一口メモ
知識

止まるという行動

時（とき）止まるべければすなわち止まり。

時（とき）行くべければすなわち行き、動静その時を失わず、その道光明なり。

止まるべき時に止まる。行くべき時であれば、躊躇なく進む。

「動静その時を失わず」動くにしても動かないにしても時を得ていれば、「その道光明なり」道は明るい、と教えている。

止まることは停滞ではない。「止まる」という行為・行動である。

進むべき時に進むために、止まるべき時には止まる。

その決断が大切である。

「易经一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

